

【討論テーマ(命題)】

株主優待制度を廃止すべきか

株主優待制度とは、企業が一定以上の株式を権利確定日に保有している株主に対して、配当以外の何らか(自社商品やサービス等)を提供する制度であり、日本独自の制度として発展してきた。

株主優待制度は、株主数の増加や、長期安定株主の形成、自社製品・サービスの宣伝効果といった点で評価されている。また、政府の掲げる「資産所得倍増プラン」により、個人投資家の裾野拡大が進む中、株主優待制度はその好循環を支える仕組みとして、一定の役割を果たしているともいわれる。

その一方で、優待内容が保有株式数と比例しないことや、海外投資家や機関投資家は優待を活用しづらいなど、投資家間の不平等性の問題が指摘されている。近年は、株主優待を廃止する企業が増加している一方で、新設する企業も存在し、制度の是非をめぐる議論は活発化している。本テーマにおいては、以下の主要論点を踏まえ、株主優待制度が投資家・企業・市場に与える影響を多角的に検証し、議論していただきたい。

- 肯定側:前提条件に従い、株主優待制度廃止を主張する
- 否定側:株主優待制度の現状維持を主張する

■前提条件

1. 日本の上場企業に対して、一律に廃止するものとする。
2. 施行時期は2029年4月1日とする。

■主要論点

1. 家計の資産形成に有益か
2. 企業の持続的な成長に寄与するか
3. 国内株式市場の発展に繋がるか(株価形成や、株主間の公平性など多角的な点から)

■留意点

- ・株主優待の目的・意義について十分に理解して議論に挑んでほしい。
- ・議論の対象は、“現行制度そのものの是非”であり、制度の改善案やルール改訂は論点に含めない。
- ・様々なステークホルダーへの影響を踏まえて議論してほしい。
- ・なお、本セミナー大会はディベートを題材とした金融の勉強の場であることを念頭に置いて取り組んでほしい